

論文番号 212

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Implications of a Health Lifestyle and Medication Analysis for Improving Hypertension Control

高血圧コントロールを改善するための生活習慣と服薬についての調査

執筆者

Matthew R. Weir, MD; Edward W. Maibach, RhD; George L. Bakris, MD; Henry R. Black, MD; Purnima Chawla, PhD; Franz H. Messeli, MD; Joel M. Neutel, MD; Michael A. Weber, MD

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Arch Intern Med. 2000; 160:481-490

キーワード

要旨

(背景) 国民の健康と栄養に関する調査において、死亡や罹患を予防する高血圧の治療やコントロールの行われている人の割合が低いという結果が示された。

(目的) この研究の目的は、高血圧を有する人のライフスタイルに関する考え方や態度と治療との間に関連があるかどうかを検討するために、患者の異なるグループについてその実態を明らかにするとともに、その共通性を明らかにすることである。

(方法) 高血圧患者 727 名について、高血圧やその管理を考えに入れたライフスタイルの考え方や態度について電話による聞き取り調査を行った。これらの対象者は、1992 年に行われた全国健康聞き取り調査の対象者の性、年齢分布にマッチして抽出した患者である。キーとなる変数のクラスター解析から、これらの患者は 4 つのタイプに分類して検討された。

(結果) 対象者は明確に分類された。グループ A は血圧のコントロールのために食事療法と薬物治療を併用する効果的な方法を用いている。グループ B は、多くの患者が薬物治療に依存しており、継続して服薬している人の割合は高かった。ただし、これらの人々は飲酒 (平均飲酒回数 104 回/年) および喫煙する人 (29%) の割合が高く、しかも定期的に運動する人の割合は低かった。グループ C は薬の服用を忘れる人が多く、多くの者が肥満している。そしてこのグループは生活習慣を変えるという指導に応じない人が多いということが明らかになった (ただし、非常に喫煙率や飲酒率の低いグループを除いて)。グループ D は、服薬している割合が最も少ないグループであった。多くの患者が医師の指示なしに服薬を止めたり服薬の方法を変えていた (20%)。また、喫煙者も多く (40%)、食事をコントロールしている人は非常に少なかった (29%)。グループ A とグループ B は、グループ C や D の成績に比べて比較的健康的な考え方や態度を持っていた。